

政策調査報告書

報告者：杉浦 久直

視 察 日	平成30年10月11日(木)～12日(金)
視 察 内 容	第80回全国都市問題会議「市民協働による公共の拠点づくり」
視 察 者	築瀬 太、杉浦 久直

< 全国都市問題会議 >

全国都市問題会議は、全国市長会をはじめとする4団体の共催により、市長、議員をはじめ、自治体関係者と学者、研究者が一堂に会し、理論と実際の両面から、都市問題、地方自治について討議する場であり、第80回となる今回は、新潟県長岡市で、「市民協働による公共の拠点づくり」というテーマで開催された。



< 長岡市の概要 >

新潟県の中央に位置する市であり、人口は県内で2番目の施行時特例市である。平成の大合併により、日本海にも面するが、長岡藩の城下町であった市街地は内陸型都市である。第二次大戦の空襲からの戦災復興都市であり、新潟県中越地震の被災地でもある。

面積 891.06 km² 人口 272,016 人 (平成30年4月1日現在)

< 1日目 >

・開会式

開会挨拶	全国市長会会長	相馬市長	立花秀清
開催市市長挨拶		長岡市長	磯田達伸
来賓祝辞		新潟県知事	花角英世

・基調講演

「地方分権へのまなざし」

東京大学史料編纂所教授 本郷和人

1960年東京都生まれ。東京大学、同大学院に学び、1988年に史料編纂所に入所。専門は中世政治史、古文書学で文学博士。近著に「日本史のツボ」(文春新書)。

概要・キーワード

1. 日本は昔から中央集権か？

輝ける古代・暗黒の中世・明治維新のV字回復という戦前の歴史観が小林秀雄に影響。

2. 貨幣を例に

和同開珎の流通実態・物々交換・日宋貿易による宋銭の流通・人口の増加と平和

3. 地方行政の形骸化

国司の任命と貴族政治・中央からの統一的なコントロールの不可・武士の誕生

4. 地域の特色

西国の平家は物流・東国の源氏は農業・西高東低・日本海交易

5. 武士と地方

武士の成長・鎌倉幕府による東の発展・守護の設置・戦国時代から日本統一・家康の関東経営
結語

江戸時代の300諸侯での地域での英才教育・黒船の明治維新と中央集権化・受験秀才の重用と太平洋戦争・現代の黒船による変革(人口減少)と地方分権の推進



・主報告

「長岡市の市民協働」

新潟県長岡市長 磯田達伸

1951年長岡市生まれ。明治大学政治経済学部卒業後、長岡市入庁、2012年副市長を経て2016年市長に就任。新しい技術や発想により解決を目指す「長岡版イノベーション」を進める。

概要・キーワード

市民協働の推進

市民協働条例の制定・30回のワークショップ 1,000人超の参加・「市民と行政または市民同士が、お互いの長所を持ち寄り、補い合うことで課題を解決し、まちづくりを進めていくのが『長岡の協働』である」

市民協働の場「アオーレ長岡」

中心市街地空洞化・市役所移転と市民活動拠点モデル事業・屋根付き広場「ナカドマ」

観光交流拠点における市民協働

インバウンド拡大・ビール園の運営を専門事業者から住民主体の事業者に

若者が活躍できるまちづくり

学生を含む30代までの若者からなる理事会で運営する「ながおか・若者・しごと機構」の設立
「NaDeC構想」の推進

3大学1高専と商工会議所による再開発事業の先行施設としてものづくり工房、コワーキングスペースの整備

長岡市の将来像～長岡版イノベーションの推進

「人づくり」と「未来への投資」を行う「新しい米百俵」

・一般報告

「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

三重県津市長 前葉泰幸

1962年三重県津市生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省入省。宮城県総務部長、大臣官房企画官などを経て、2006年デクシア銀行に転じ、2011年津市長就任。「笑顔があふれ幸せに暮らせる県都津市」を将来像に据え、「『まちづくり』から『暮らしづくり』へ」をテーマに市政を展開。

概要・キーワード

合併による新市まちづくり計画の実行

市民理解の推進・PFIによる斎場整備・一般廃棄物最終処分場・津市産業スポーツセンター

第3セクター2法人の経営危機

「不都合な真実」の開示・津センターパレスビル・民間撤退と公共施設移転・ポルタひさいビル
市民対話から公共施設の整備

市内37地域の半年ごとの地域懇談会・義務教育学校「みさとの丘学園」・認定こども園「津みどりの森こども園」

議論による公共施設再編

一身田公民館・新町会館・安濃庁舎周辺公共施設の再編・たたかれても原案を出す・行政の責任

・一般報告

「場所の時代」

建築家 東京大学教授 隈研吾

1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授を経て、2009年より現職。近作に長岡市役所アオーレ、歌舞伎座、FRAC マルセイユや、新国立競技場など、国内外で多数のプロジェクトが進行中。著書に「小さな建築」(岩波書店)、「建築家、走る」(新潮社)など多数。

概要・キーワード

場所を主役とする時代の到来

20世紀は「堅い」建築、21世紀は「場所」の建築・コミュニティ・ウォークブルシティ

都市主義の終焉としての“3.11”

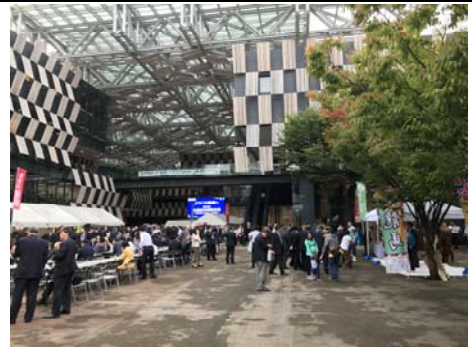
工業化社会、東京中心主義の終わり・コンクリートと鉄、都市主義の終焉

小さなエレメントによる建築

悲劇から新しいムーブメント・「小さな場所」の力・ボトムアップの「小さなエレメント」

大きい建築を場所へつなぐこと

大きいものの難しさ・切断でなくどうつなぐか・つなぐ方法は形態論と同時にコミュニティ論



前長岡市長 筑波大学客員教授 森民夫

1949年新潟県生まれ、東京大学工学部建築学科卒業後、建設省入省。1999年から長岡市長に就任し、2016年に退任。アオーレ長岡の発注者。

概要・キーワード

理念提示する責任・まちなか型公共サービス・中心市街地活性化で市民の誇りを取り戻す・市役所＋イベントの場で賑わい・合併特例債、まちづくり交付金・分散配置とワンストップサービス

アートディレクター 森本千絵

株式会社 goen^o 主催。武蔵野美術大学客員教授。1999年武蔵野美術大学卒業後、博報堂入社。2007年 goen^o 設立。伊丹十三賞、日本建築学会賞、日経ウーマンオブザイヤー2012など受賞多数。

概要・キーワード

アオーレのサイン計画・米百俵フェス・ワークショップ 踊り 市民参加 シビックプライド

< 2日目 >

・パネルディスカッション

「市民協働による公共の拠点づくり」

[コーディネーター]

明治大学政治経済学部地域行政科長・教授 牛山久仁彦

1961年長野県生まれ。中央大学法学部法律学科卒業後、明治大学助教授等を経て現職。日本行政学会理事、日本地方自治学会理事。神奈川県総合計画審議会副会長、埼玉県行政不服審査会委員の他、市町村アカデミー等で研修講師も務める。著書に「分権時代の地方自治」(三省堂)等。

[パネリスト]

東京理科大学理工学部建築学科教授 伊藤香織

東京都生まれ。東京大学大学院修了。工学博士。東京大学空間情報科学研究センター助手などを経て現職。専門は都市空間の解析及びデザイン。著書に「シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする」(宣伝会議)等。シビックプライド研究会代表。

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長 奥山千鶴子

NPO 法人びーのびーの理事長。1962年青森県生まれ。内閣府子ども子育て会議委員他。「子育て広場全国連絡協議会」を設立し、全国の子育て支援団体との交流を深め、子育ての環境づくりに尽力。

長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 羽賀友信

1950年生まれ。1980年カンボジア難民救急医療プロジェクトで国際協力プロジェクトに関わる。長岡市教育委員、まちなかキャンパス長岡学長、NPO 法人市民協働ネットワーク長岡代表理事など。外務大臣感謝状、JICA 理事長賞、地域づくり総務大臣表彰など多数受賞。

埼玉県和光市長 松本武洋

1969年兵庫県明石市生まれ。1992年早稲田大学法学部を卒業後、金融機関、東洋経済新報編集部等を経て、2003年和光市議会議員に当選。2009年和光市長に就任。「夢と希望が持てるまち、もっと元気な和光市の実現」を公約とし、魅力あるまちづくりを推進。

高知県須崎市長 楠瀬耕作

1960年高知県土佐市生まれ。東京経済大学経営学部卒業後、会社役員、須崎商工会議所副会頭等を経て、2012年須崎市長に就任。過疎・高齢化・人口減少、財政状況等を見据え、新しい価値や地域の元気を創造して次世代につなげる地域づくり「持続可能な須崎づくり」を推進。

・閉会式

時期開催市市長挨拶 鹿児島県霧島市長 中重真一

閉会挨拶 日本都市センター理事長 高松市長 大西秀人

〔感想・岡崎市への反映〕

・アオーレ長岡を会場に開催された今回の全国都市問題会議では、「市民協働による公共の拠点づくり」というテーマで、多様な事例紹介や、意見交換がなされ、有意義な会議への参加となった。

会場となったアオーレ長岡を訪れたのは2度目であったが、改めてこの市役所と市民活動拠点、アリーナと屋根付き広場の「ナカドマ」が一体となった公共施設の素晴らしさには感心させられた。

中心市街地の活性化の役割を担いつつ、市役所機能は近隣に分散しながらも、市民窓口はワンストップで対応し、また窓口も非常に立ち寄りやすい構成となっており、さすがは時代を担う建築家の隈研吾による建築であると感じた。また、このアオーレの建築に向けた市民協働の取り組み、シビックプライドの醸成についてもより深く知ることができ、市民に受け入れられる公共施設整備のプロセスの要点を知ることができた。そして、これからの人口減少を見据えて各自治体で取り組んでいかななくてはならない公共施設の再配置についても、具体的な事例をいくつも知ることができた。

本市においても公共施設等総合管理計画が作成され、一部では具体的な動きも出てきている状況ではあるが、将来にわたり取り組んでいく必要があり、また計画の推進を図るためにも、情報の開示、見える化などを含めた、市民の理解の促進と、施設整備、再配置の際の市民協働の取り組みの必要性を再認識した。自治体の財政状況も厳しくなる中で、公共の担う役割を、市民協働で支えてもらう必要がますます高まってくることであり、各公共施設の今後の位置付けを地域や利用者、団体としっかり協議していかなくてはならない。

〔同行者の所感〕

・「地方分権へのまなざし」東京大学史料編纂所教授 本郷和人 氏による基調講演

日本ではいつから中央集権が始まったのか？との問いかけから講義が始まった。考えてみれば我々は、小学校の時から「古代の昔から日本は統一国家であった」という歴史教育を受けてきた。しかし、あらためて考えると、一つの政府として日本の隅々まで同じ制度が行き渡ったのは明治になってからとも言える。中央集権化が国力の向上に寄与したことは間違いないところであるが、その方向は戦争に向かって突き進んでいたのではないかと。人口減少社会の今、求められるのは強力な中央集権化による国力の向上よりも、国力が低くても安定できる地方分権化の進展ではないかと、地方からのボトムアップこそが新しい日本を支えていく。とりわけ、江戸時代では、300諸侯のそれぞれの地域で教育があり、英才が育てられ、それが江戸時代の長期の安定と幕末の外圧による混乱期における地方からのボトムアップに繋がっていったのではないかと、との話しは大きく頷けるものであった。

「長岡市の市民協働」新潟県長岡市長 磯田達伸氏による主報告

「何事も基本は人。人づくりこそすべての根幹である」という「米百俵」の精神とともに、今ある長岡の礎を築いた「市民協働」によるまちづくりについて報告があった。平成24年にオープンした「アオーレ長岡」を拠点として新たな市民協働を推進していく取り組みについての報告では、ハコモノ行政に対するステレオタイプの批判に対し、やはり居場所や心の拠り所となる拠点の重要性、またそのあり方に対する考え方はたいへん参考になった。

「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」三重県津市長 前葉泰幸氏による一般報告

市町村合併5年後の「新市まちづくり計画」による公共施設の統廃合について報告があった。特に旧美里村の小学校の統廃合では、地域住民と何度話し合いをしてもなかなかどの小学校に統合するか決められなかったが、子どもたちのために事態を何とか動かしたいという真摯な気持ちから、発想の転換が図られ、旧美里村唯一の中学校に、三重県初となる小中一貫の9年制義務教育学校を開校しようというもので「小学校の統合」という後ろ向きの課題が、「義務教育学校の新設」という新しく前向きな挑戦へと姿を変えたことで、地域住民の熱意が高まり、懸案が一気に解決へと向かったという話しは、たいへん興味深いものであった。

「場所の時代」建築家・東京大学教授 隈 研吾氏の一般報告

その場所ではしか手に入らない材料を使い、場所を熟知した職人の手を使い、その地の気候、環境と調和する、徹底的に場所にこだわって設計について、現にその場にいる、会場であるアオーレ長岡の建築を例に話しをされたので、公共建築の設計という専門性の高い内容ではあったが、たいへんわかりやすく、よく理解することができた。

「市民協働による公共の拠点づくり」パネルディスカッション

コーディネーター役は、岡崎市市民協働推進委員会の委員長を務めていただいている、明治大学教授の牛山久仁彦先生であったので、たいへん興味深く拝見した。パネリストからは「シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える拠点」や「子育て支援から見た公共の拠点づくり」「長岡の市民主体のまちづくりとアオーレ長岡の役割」「和光市における地域包括ケアを支える新たな拠点づくり」「人・モノ・金の好循環を目指す高知県須崎市の取り組み」について発表があり、会場参加者との活発な質疑応答も行われ、市民協働による拠点づくりに対する意識の高さが感じられた。